

使用後の手入れと保管

①作業が終わったら

- 1 薬液口キャップをゆるめ、タンク～GTノズルの圧力を抜いてください。
- 2 タンク内を十分に洗浄し、更に清水を入れ1分間以上噴霧してからタンク内の水を捨ててください。
- 3 定期的に、GTノズルの⑬コシアミを清水で洗浄してください。

- ※洗浄を怠った場合、コシアミや噴口が目詰まりを起こす場合があります。
- ※薬液や空気が噴き出す恐れがありますので、ポンプや接続部を外す前に薬液口キャップをゆるめタンク～GTノズルの圧力を抜いてください。
- ※余った薬液は、河川、水源池、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ※前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズル等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。使用した後は、残っている薬液を必ず十分に洗い流してください。

②保管

- 屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ※プラスチック部品は、直射日光に長時間さらされると、著しく強度が低下する場合があります。また注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので保管には充分注意してください

故障と修理方法

内容	原因	処置
ピストン操作が重い、またはピストンが押し戻される	●Oリング⑳の油切れ ●弁部のゴミ詰まり、または劣化、老化	○注油する ○掃除する、または新品と交換する
圧力が上がらない、または空気の漏れる音がする	●ねじ部、薬液口より空気が漏れる ●Oリング㉑の劣化、老化 ●Oリング㉒の劣化、老化 ●Oリング㉓の油切れ	○各ねじ部、薬液口キャップを締め付ける ○新品と交換する ○新品と交換する ○注油する
液の出が悪い、または噴霧状態が悪い	●加圧不足 ●噴口にごみが詰まっている。 ●噴口本体にごみが詰まっている。 ●コシアミにごみが詰まっている。	○加圧する ○掃除する ○掃除する ○掃除する
液が止まらない	●ニードル部Oリング㉔の油ぎれ ●ニードル部バルブパッキン㉕のゴミ詰まり ●コック式のゴミ詰まり	○注油する ○掃除する ○掃除する
接続部から薬液が漏れる	●ねじのゆるみ ●接続部のパッキンの劣化、老化	○各接続部のねじを締め付ける ○パッキンを新品と交換する

修理を行う場合は、事前に薬液口キャップをゆるめ、タンク内の圧力を抜いてください。
また、ノズルキャップの掃除を行う際は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ずGTノズルを停止状態としてから行ってください。

製造元



スプレーノズルのパイオニア

株式会社永田製作所

本社 555-0013 大阪府 大阪市西淀川区千舟1丁目5-41
TEL06-6473-0835 FAX06-6472-6280

仕様	
コードNo.	4700700
品名	GTスプレー (1ℓ全自動) ノズル付



記載内容の性能・仕様は改良の為、予告なく変更する場合があります。 pl.47007.201804



取扱説明書

GTスプレー
(1ℓ全自動) ノズル付
ホルモン剤専用スプレー

このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。
本書はいつでも内容が確認できるように、大切に保管してください。
また、本書を汚損したり紛失した場合はお買い上げの販売店にご注文いただき大切に保管してください。
本書に記載した▲の表示のある注意事項は人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり必ずお守りください。

作業前点検準備



- 次に該当する人は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気をおびた者
 - ・過労、病気、薬物 その他の理由により、正常な防除作業ができない者
 - ・妊娠中の者
 - ・満15歳未満の者
 - ・負傷中の者、生理中の女性など農業による影響を受けやすい者
- 作業前に各ねじ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないことなど、各部に異常のないことを確認してください。
- 安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

作業開始及び使用中の厳守事項



- ・農業の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護服、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまい、頭痛を生じ、または気分が少しでも悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
- ・噴霧しない状態で必要以上に加圧しないでください。
- ・加圧した状態で長時間放置しないでください。
- ・ハウス内では換気を行いながら作業してください。
- ・作業中にノズル部を清掃する場合は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので、必ずGTノズルを停止状態としてから行ってください。

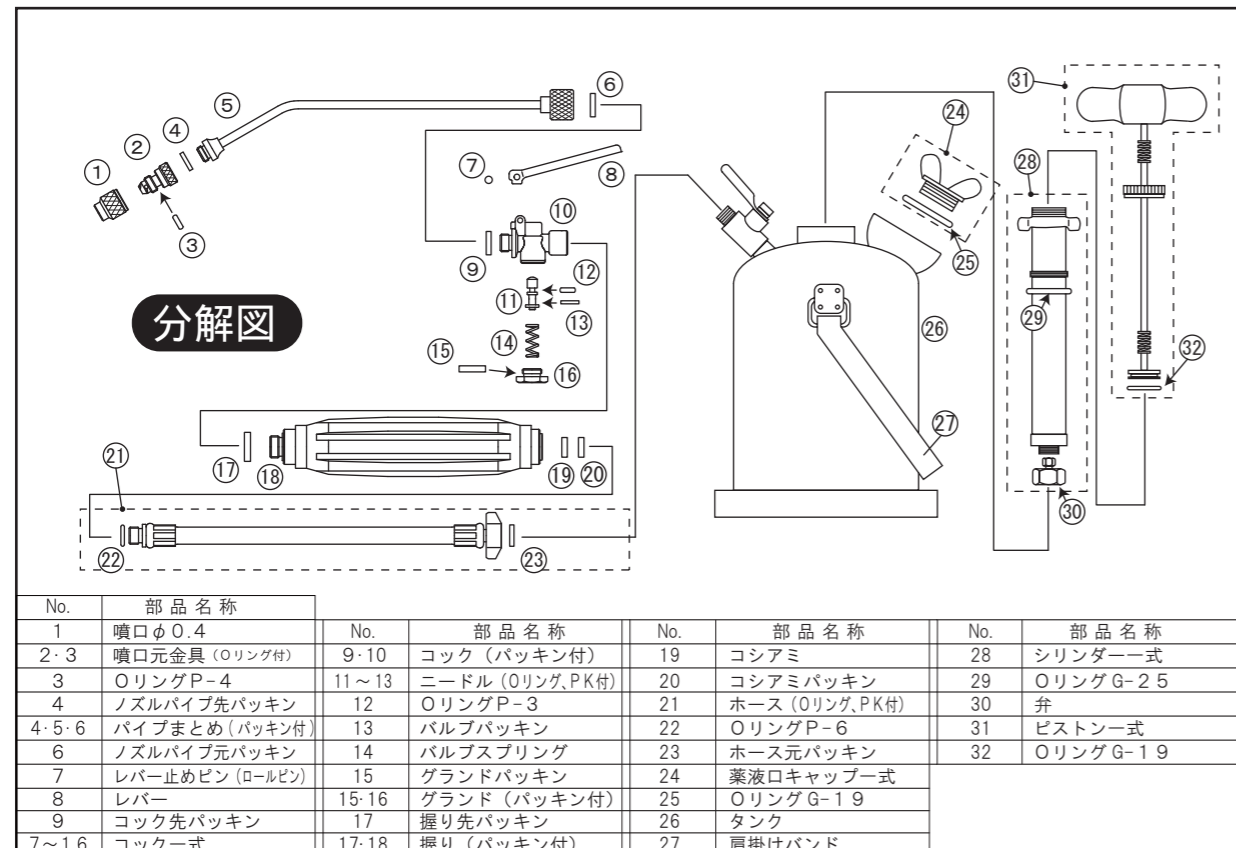
農薬の取り扱い

- 農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。(ハエや蚊などの殺虫剤、下水道の消毒剤等の環境衛生用の薬品は使用できません)
- やけど、火災の恐れがありますので強酸性の薬品・塗料・シンナー・ガソリン・灯油・ベンジン等は絶対に使用しないでください。
- 調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- 安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。
- 農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- 誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- 農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は薬害のない方法で処分してください。

作業終了後遵守事項



- タンク～G Tノズルが加圧された状態でポンプや接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。ポンプや接続部を外す前に薬液口キャップをゆるめ、タンク～G Tノズルの圧力を抜いてください。
- 作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。
- 余った薬液は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう薬害のない方法で処分してください。
- 使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズル等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。使用した後は残っている薬液を充分に洗い流してください。

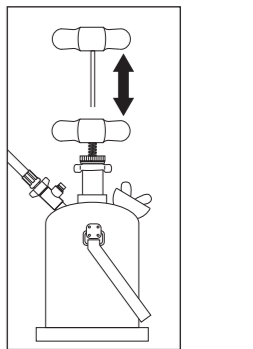
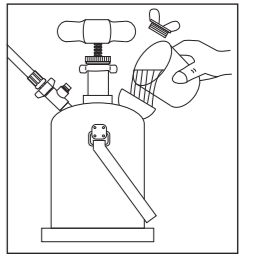
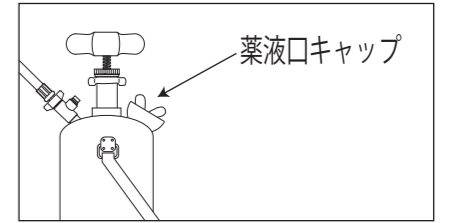


No.	部品名称	No.	部品名称	No.	部品名称	No.	部品名称
1	噴口φ0.4	9	9・10	9	9・10	19	コシアミ
2・3	噴口元金具(リング付)	11~13	ニードル(リング、PK付)	20	コシアミパッキン	28	シリンダー一式
3	OリングP-4	12	OリングP-3	21	ホース(Oリング、PK付)	29	OリングG-25
4	ノズルパイプ先パッキン	13	バルブパッキン	22	OリングP-6	30	弁
4・5・6	パイプまとめ(パッキン付)	14	バルブスプリング	23	ホース元パッキン	31	ピストン一式
6	ノズルパイプ元パッキン	15	グラントパッキン	24	薬液口キャップ一式	32	OリングG-19
7	レバー止めピン(ロールピン)	15・16	グラント(パッキン付)	25	OリングG-19		
8	レバー	17	握り先パッキン	26	タンク		
9	コック先パッキン	17・18	握り(パッキン付)	27	肩掛けバンド		
7~16	コック一式						

①薬液の入れ方



- 薬液口キャップを取り外します。
※薬液を入れる前にG Tノズルのコックは必ず停止の状態にしてください。
- 調合した薬液をタンクに入れます。
※薬液は他の容器で調合、計量してから入れてください。
※薬液は規定量(1ℓ)以上入れないでください。
規定量以上いれると、薬液口からあふれてしまいます。
※薬液タンクにゴミが入らないよう、薬液の調合には必ず水道水をご使用ください。
※安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。
※土壌消毒剤・土壌燻蒸剤は、故障の原因となりますので使用しないでください。
- 薬液口キャップを取り付けます。
・薬液口キャップは、空気が漏れないよう充分締め付けてください。
締め付け不足は空気漏れや圧力が上がらない原因になります。



②加圧します

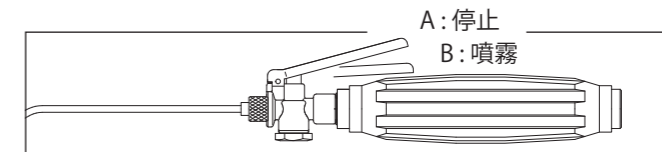


- ハンドルを上下させ加圧します。
※使用途中、噴霧力が低下したら追加加圧してください。
※ハンドルを20～30回加圧してください。

③噴霧します

G Tノズルの操作

- Aの位置が停止です。
- レバーを押し、Bの位置にすると噴霧し、レバーを放すとAの位置に戻り、噴霧は停止します。
※不用意にレバーが噴霧の状態にならないよう、取り扱いには充分注意してください。
※ノズル内に空気があるとレバーの効きが悪いので、散布開始の前にレバーを押し、空気を追い出してください。



- ※G Tノズルを吐出の状態にするときは周囲の状況を充分確認してください。
- ※作業中にめまい、頭痛を生じ、または気分が少しでも悪くなった場合には直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
- ※タンク～G Tノズルが加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出します。接続部を外す前に薬液口キャップをゆるめタンク～G Tノズルの圧力を抜いてください。
- ※コックを停止の状態が必要以上に加圧しないでください。
- ※加圧した状態で長時間放置しないでください。
- ※ハウス内では換気を行いながら作業してください。